



国学院大学

令和6年2月20日(火) 定期号(毎月20日発行) 1部20円

[発行]国学院大学 [編集]総合企画部広報課 〒150-8440 東京都渋谷区東四丁目 [電話]03(5466)0130 [FAX]03(5466)0528

祭 儀

■ 月次祭

3月1日(金) 午前10時 仮殿

■ 卒業奉告祭

3月19日(火) 午前10時 仮殿

研究
者に
聞く

水中考古学を切り開く

研究開発推進機構・池田榮史教授

水中に眠るいわゆる「お宝」は、見つかるのも大変だが、見つけた後もまた大変だ。水面下にある水中遺跡を調査・研究する水中考古学の第一人者である池田榮史・研究開発推進機構教授によるさまざまな挑戦のエピソードに耳を傾けていると、解決しなければいけない課題の多さに驚く。多くの人が知る、モンゴル襲来という歴史的な出来事。その「伝説」を裏づける、沈没した元軍船が見つかったというニュースはかつて世間を騒がせたが、しかし安易に引き揚げてしまつては、むしろ劣化が進んでしまうというのだ。池田教授は今、近い将来に訪れるはずの沈没船引き揚げの日に向けて、チャレンジを続けている。

海の中のみならず、その学問分野自体に池田教授が「ダイブ」したのは、どんな理由や経緯があったのだろうか。目の前も見通せない水中でさえ、遺跡や遺物が見つかるように、研究者の歩みもまた、ふとしたきっかけで大きく進展するものなのかもしれない。

4・5面に
関連記事

A日程入学試験

2年連続増の
約1万3500人が志願

国学院大学の前期一般選抜入学試験であるA日程入学試験が2月2日から4日までの3日間で実施された。A日程の志願者は約1万3500人となり、昨年度から約500人増加。2年連続増となった。

試験は渋谷・たまプラーザキャンパスの試験会場では、到着した受験生たちが入り口前の掲示板で受験票を片手に自身の受験教室を確認すると、緊張した面持ちでそれぞれの教室に向かつていった。また、付き添いに訪れた保護者や家族から、これから試験に臨む受験生に対してエールを送る様子も数多く見受けられた。

試験は大きなトラブルもなく終了し、13日には合格発表が行われた。後期一般選抜入学試験であるB日程入学試験は、3月2日に渋谷・たまプラーザキャンパスで実施される。

み
はるかすもの

第66回グラミー賞が発表され、シンガー・ソングライターのマイリー・サイラスが「年間最優秀レコード」を含む2部門を受賞した▼グラミー賞は近年、足元を揺らがされてきた。以前、最優秀ラップ・アルバム賞を受賞した黒人ラッパーが、ノミネーション時点で主催者側に偏見がある、ジャンルレスな作品でも有色人種への眼差しに基づくカテゴリーをされるという批判をしたように、人種・ジャンル・部門を巡る議論が断続的になされている。

今回はR&B界で、キャリアを重ねたヴィクトリア・モネが最優秀新人賞を受賞。最多9部門ノミネートのSZ Aの主要4部門の受賞はなかった▼映画

の世界も同様だ。アカデミー賞の前哨戦と位置づけられるゴールデン・グローブ賞は、その主催団体のメンバー構成が多様性に欠けると批判され、非白人や女性の比率を増やすなど対応に迫られてきた▼才能をたたえ、その背中を押す「顕彰」という行為自体が、現代において再考されつつあるといえるのかもしれない。誰が、誰をたたえるのか。対象の絞り込み方を含めて、どのようなプロセスを経ていくのか。

「顕彰」する側が、その権威の由来を問われているのだ▼3月に発表される第96回アカデミー賞では、「原爆の父」と呼ばれる物理学者を題材にした『オッペンハイマー』が最多13部門にノミネートされており、同月下旬の日本公開も決定している。建設的な議論が展開されていくことを期待したい。

会計士・税理士・国家総合職など 難関試験突破者を祝福

本学独自の難関試験突破プログラム「K-PLAS（ケープラス）」の受講生で、令和5年度の公認会計士試験に合格した真家拓海さん（経4）、上野葉奈さん（史4）と国家公務員総合職（キャリア官僚）として消費者庁に採用内定した最上奏羽さん（法4）の3人が1月26日、佐柳正三理事長にそれぞれの進路の報告を行った。写真上。

佐柳理事長から3人に對し、これまで積み重ねてきた並々ならぬ努力に對しての労いとともに「皆さんのこれからの活躍を期待している」と祝福の言葉が贈られた。同プログラムでの公認会計士試験合格者は3年連続、国家公務員総合職内定者は2年連続の輩出となる。

税理士試験合格者祝賀会
国学院大学大学院経済学研究科の大学院生・修了生を対象とした税理士試験合格者祝賀会が1月27日に渋谷キャンパスで開催された。同祝賀会は新型コロナウイルスの影響により、令和2（2020）年以來4年ぶりの開催となった。今年度の税理士試験に合格した大学院生7人に加え、祝賀会が行えなかった年度の合格者の修了生に對して、大学院の石本道明・代表幹事（文学部教授）と「同下」と細井長・経済学研究科委員長（経済学部教授）、指導にあたった教員陣らから、合格者たちの努力がたたえられ、祝福の言葉が贈られた。

公認会計士合格者・国家公務員総合職内定者が佐柳理事長へ進路報告



国際交流送別会
国際交流送別会が1月26日に渋谷キャンパスで開催され、学生・教職員ら約60人が参加し、留学期間を終える大学院交換留学生6人、K-STEP交換留学生1人を送別した。初めに尾近裕幸理事（経済学部教授）が「学びでも学生生活でも、交換留学生の皆さんの留学が実り多いものであったならうれし

人間開発学部 学部長賞表彰式、学生懇談会を実施

地域貢献、課外活動など優れた活動に取り組んだ学生を表彰する「人間開発学部学部長賞」の表彰式が1月17日、たまプラーザキャンパスで行われ、18人が表彰された。太田直之・人間開発学部長（教授）と前列左から4人目から受賞者に表彰状が手渡され、学生たちはそれぞれの活動内容やそこで得た学び、今後の抱負を述べた。

18日には同賞受賞者と教職員とで同学部のこれからのについて話し合う人間開発学部学生懇談会が開催された。学生からは3学科の連携強化や、就職活動支援などについて期待する声が寄せられた。受賞した学生は次の通り（敬称略）。



インフォダイジェスト

大学からのお知らせ

国学院大学生協への出資金返還
生協加入時にお預かりした出資金の返還手続きを開始します。令和5年度の手続きの詳細は生協HP（<https://www.kgucoop.or.jp/henkan2.html>）をご覧ください。返還期限は令和8（2026）年2月末です。期限内での返還手続きをお願いします。
3月4日(月)～
令和5年度卒業生
生協事務局（☎03・5466・0165）

博物館

料無料
時10時～18時（最終入館17時30分）。祝日を除く月曜休館
※博物館関連イベントの問い合わせは☎03・5466・0359

企画展「榎園好古図譜―北武蔵の名家・根岸家の古物（たから）」

北武蔵青山村（現・埼玉県熊谷市）の名家「根岸家」の11代当主・根岸友山とその子息・武香は、著名な“好古家”として知られてきました。この度、武香の蒐集品が精緻な彩色画で記録された図譜が再発見され、科研費事業の成果のもと、本展で初公開する運びとなりました。同家あるいは各所に残る実際の資料と図譜を対比して展示することで、その膨大なコレクションの一端を紹介します。

2月17日(土)～4月14日(日) ※期間中ミュージアムトーク2回実施
博物館企画展示室

株式会社フォーバルと相互連携協定

国学院大学（学長・針本正行）と株式会社フォーバル（代表取締役社長・中島将典）は1月22日、寄附講座の実施や人材育成に関する分野で相互連携、協力することに合意し、基本協定を締結した。締結後、針本学長は「日本を支えるDX人材育成に向けた寄附講座が開講され、新たな学びが始まり、学生にとって有意義なものになると感じている」とあいさつした。

院友・武岡選手 柔道グランドスラム制覇

2月2日、フランス・パリで開催された柔道のグランドスラム（GS）男子66kg級で院友（卒業生）の武岡毅選手（令4卒・130期日文、パーク24）が、世界選手権を2度制覇した丸山城志郎選手（ミキハウス）を決勝戦で延長の末に優勢で破り、国際大会で初優勝を果たした。

大学院委員長特別賞 表彰式を実施

大学院委員長特別賞の表彰式が1月17日、渋谷キャンパスで行われた。同賞は大学院学生の学修意欲の向上を目的とし、優秀な学業成績を収めた学生の業績をたたえ、誇りをもって研究活動を継続できるよう表彰を行う制度として創設された。
受賞学生は以下の通り（敬称略）。
▷高夢雨（博後文2）▷上出大河（博後文2）▷草山菜摘（博前文1）▷柿本拓郎（博前法1）

黒川恒雄・元経済学部教授逝去

国学院大学元経済学部教授の黒川恒雄氏が昨年10月1日に逝去。93歳。
黒川氏は昭和5年生まれ。28年京都大学経済学部卒業。日本銀行、学校法人工学院大学勤務を経て平成8年国学院大学経済学部教授、13年定年退職。
専門は情報システム学。葬儀は既に執り行われた。

西川佳代・元専門職大学院法務研究科（法科大学院）教授逝去

国学院大学元専門職大学院法務研究科（法科大学院）教授、横浜国立大学大学院国際社会科学研究院教授の西川佳代氏が1月25日に逝去。56歳。
西川氏は昭和42年生まれ。平成2年九州大学法学部卒業、7年同大学院博士後期課程単位取得退学。同年国学院大学法学部専任講師、10年助教授、17年同研究科教授、25年自己都退職。
専門は民事法。葬儀は既に執り行われた。

…在学生 …保証人 …卒業生 …一般 …受験生
内容 日にち 時間 場所 対象 定員 料金 申し込み 問い合わせ

読者アンケート

本紙へのご感想をお待ちしています

「国学院大学学報」では、読者の皆さまからのご意見・ご感想を募集しています。

今後の紙面作りの参考にさせていただきますので、以下（二次元コード）のフォームから、ぜひご協力をお願いいたします。



総合企画部広報課
（☎03・5466・0130）

資金収支補正予算書 令和5年4月1日から令和6年3月31日まで

収入の部				支出の部			
科目	補正予算	予算	増減	科目	補正予算	予算	増減
学生生徒等納付金収入	14,542	14,483	59	人件費支出	10,313	10,311	2
手数料収入	728	941	△213	教育研究経費支出	5,106	5,053	53
寄付金収入	362	351	11	管理経費支出	1,416	1,426	△10
補助金収入	2,784	2,802	△18	借入金等利息支出	7	7	0
資産売却収入	0	0	0	借入金等返済支出	545	545	0
付随事業・収益事業収入	229	141	88	施設関係支出	643	1,038	△395
受取利息・配当金収入	188	175	13	設備関係支出	401	335	66
雑収入	312	270	42	資産運用支出	3,556	2,205	1,351
借入金等収入	501	501	0	その他の支出	514	370	144
前受金収入	2,705	2,689	16	予備費	294	294	0
その他の収入	1,762	1,930	△168	資金支出調整勘定	△349	△300	△49
資金収入調整勘定	△3,087	△3,299	212	当年度支出合計	22,446	21,284	1,162
当年度収入合計	21,026	20,984	42	翌年度繰越支払資金	8,128	8,549	△421
前年度繰越支払資金	9,548	8,849	699	支出の部合計	30,574	29,833	741
収入の部合計	30,574	29,833	741				

事業活動収支補正予算書 令和5年4月1日から令和6年3月31日まで

		科目	補正予算	予算	増減			科目	補正予算	予算	増減
教育活動収支	事業活動収入の部	学生生徒等納付金	14,542	14,483	59	特別収支	事業活動収入の部	資産売却差額	0	0	0
		手数料	728	941	△213			雑収入	0	0	0
		寄付金	328	319	9			その他の特別収入	62	52	10
		経常費等補助金	2,767	2,792	△25			特別収入計	62	52	10
		付随事業収入	179	141	38		事業活動支出の部	資産処分差額	4	0	4
		雑収入	312	270	42			その他の特別支出	0	0	0
		教育活動収入計	18,856	18,946	△90			特別支出計	4	0	4
	事業活動支出の部	人件費	10,177	10,339	△162	特別収支差額		58	52	6	
		教育研究経費	6,845	6,689	156	〔予備費〕		294	294	0	
		管理経費	1,529	1,534	△5	基本金組入前当年度収支差額		300	310	△10	
		教育活動支出計	18,551	18,562	△11	基本金組入額合計		※△1,336	△1,664	328	
教育活動収支差額		305	384	△79	当年度収支差額		△1,036	△1,354	318		
教育活動外収支	事業活動収入の部	受取利息・配当金	188	175	13	前年度繰越収支差額		△9,774	△10,695		
		その他の教育活動外収入	50	0	50	基本金取崩額		0	0		
		教育活動外収入計	238	175	63	翌年度繰越収支差額		△10,810	△12,049		
	事業活動支出の部	借入金等利息	7	7	0	(参考)					
		その他の教育活動外支出	0	0	0	事業活動収入計		19,155	19,173	△18	
		教育活動外支出計	7	7	0	事業活動支出計		18,855	18,863	△8	
	教育活動外収支差額		231	168	63	※■第1号基本金…10億3600万円 教育の質向上のために取得した固定資産の価格					
経常収支差額		536	552	△16	■第2号基本金…3億円 教育の質向上のために将来取得する固定資産取得に充てるもの						

明治期皇典講究所・国学院の
編纂・出版事業

令和5年度学校法人国学院大学補正予算は、1月25日の理事会・評議員会で承認、成立した。

とを目的としている。

令和5年度補正予算総額は305億7400万円で、当初予算額対比7億4100万円の増額となった。収入面では学費等納付金収入の増収を見込むほか、支出面では光熱水費の増額(約4000万円)を計上している。

事業活動収支予算は、①教育活動、②教育活動以外の経常的な活動、③①②以外の活動、以上3つの事業活動収支の内容を明らかにするとともに、当該会計年度において基本金に組み入れる額を控

除した、当該会計年度の諸活動に対応するすべての事業活動および事業活動支出の均衡の状態を明らかにすることを目的としている。

本補正予算においては、基本金組入前収支差額は3億円の収入超過、翌年度繰越収支差額は108億1000万円の支出超過となる見込みである。

詳細は、学校法人国学院大学HPに掲載している。

(財務部経理課)



國重正文 山田顯義と同郷(萩)出身で親しく、事業計画にあたって山田の遺志の継承に努めた。皇典講究所では会計監督として経営内情に精通していた。

明治期の皇典講究所・国学院では、日頃の学術研究の成果や知見について、これを書籍として編纂・刊行し、社会へと還元することがその事業の柱石の一つとして位置していた。もつとも、皇典講究所は創設からわずか3年後には、その財政は「甚不都合之至ニ有之候、…前途甚不安心之儀候ニ付」(明治18(1885)年)といわれるほど困難な状況にあった。明治期皇典講究所・国学院における書籍編纂・出版事業には、一方で財政困窮の挽回のための方策という側面もあつたことは否定できない。

例えば、国学院設置に重大な役割を果たした山田顯義(皇典講究所所長・司法大臣)は、財政的に「皇典講究所が」将来維持の方法困難」であることを看破していた。そこで事業拡張の協議会を催し、①国学院・日本法律学校設置の他、中等学校と師範学校の教員資格取得、②国体および固有倫理にかんする教科書の編纂、③新聞雑誌による宣伝、④通信教育導入と校外生募集などを計画した。また山田は『古事類苑』や教科書編纂事業遂行の必要について演説をおこなうなど、編纂・出版事業に寄せる期待は並々ならぬものがあつた。

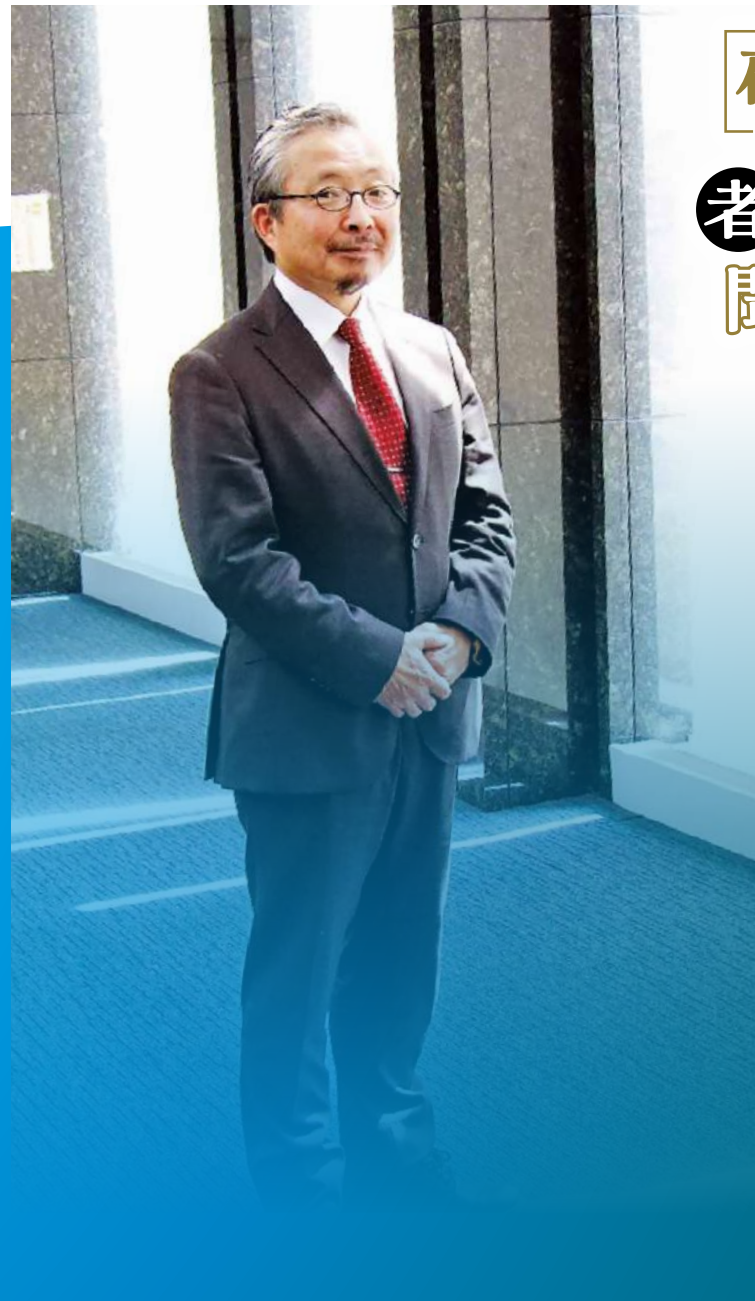
ところが、山田は急逝し(明治25年)、臨時に松野英雄監事らが経営を領導することとなる。かれらにより組織や事業の改定発展案として立案された『皇典講究所御処分案』では、事業を教育と編纂の二部門立てとする大胆な構成を採用し、とくに後者には①文部省委託『古事類苑』の編纂継続、②教科書編纂の継続拡張、③帝国大学で停止中の史誌編纂の引き受け希望、④講演録発行の継続実施などの施策が掲げられていた。さらに松野の死去(明治26年)を経て、新たに院長に立った國重正文(明治27年)は、改めて①国学院の生徒養成、②学階授与試験の施行、③礼典の一部別置、④『古事類苑』編纂、⑤講演会開催と講演録・通信講義の発行などからなる事業綱領を示した。ただし、時局(財政の困窮極致、日清戦争への突入など)の関係からであろうか、④では従前までの教科書編纂が削除されるなど編纂・出版計画は縮小後退したらしい。

のち佐佐木高行が所長・院長に就任(明治29年)すると、人事刷新や規則改正といった諸改革が進められ、ようやく編纂・出版事業にも回復の兆しが見えた。明治36年には事業拡大にともない、編輯部が国学院の所轄から経営分離されている。図書編纂・出版事業の本格化を企図したものでろう。また、このかん皇典講究所卒業生や国学院同窓会による書籍の編纂や院友研究会・史学講究会の発足をみるなど、明治20年代後半から同30年代にかけて皇典講究所・国学院内外で文運興隆の機運が醸成されたことも看過できない。ただし、出版関連事業のいわば勇み足は、やがて教科書編修出版問題を惹起する。

なお、文運盛り上がり矢の出来事として特筆すべきは、明治27年、募金計画として特別賛成員・通常賛成員に非売品の雑誌の頒布を打ち出したことである。この雑誌こそ本年創刊130周年の節目を迎える『國學院雑誌』である。黎明期皇典講究所・国学院の事業にみえる書籍の編纂・刊行は、その水脈を今日まで豊かに湛え続けている。

研究開発推進機構 助教(特別専任) 比企貴之

研究者に聞く



いけだ・よしふみ 文学修士（文学関係）。専門は日本考古学、水中考古学。主な編著書は『沖縄戦の発掘 沖縄陸軍病院南風原壕群』（新泉社、2019年）、『海底に眠る蒙古襲来：水中考古学の挑戦』（吉川弘文館、2018年）、『古代中世の境界領域—キカイガシマの世界』（高志書院、2008年）。

研究開発推進機構・池田榮史教授

潜って見つけるだけではない

水中考古学の未知への挑戦

試行錯誤した保存処理方法の研究

そこで25年以降の年月の間、私たちは従来の水中考古学において採用されてきた保存処理方法を見直す研究を進めました。

これまで木材の保存処理にはポリエチレングリコール（PEG）という保存処理剤が用いられてきたのですが、高分子化合物、つまり非常に複雑な構造をもつPEGは、木材への含浸がなかなか進まないですね。例えば、スウェーデン王室軍艦であるパーサ号（1628年沈没）は、昭和36（1961）年に引き揚げられたのですが、PEGによる保存処理に約30年もかかりました。

しかも、こうしたPEGを用いた保存処理では長い時

間がかかるにもかかわらず、その後劣化してしまうということも、次第に明らかになってきています。私たちとしては、木製の大型いかりのみならず、将来的には元軍船を引き揚げ、保存していきたいわけですが、これはまずい、そもそもその処理に時間がかかるということはお金もかかるぞ、さらには保存処理しても劣化が進むのであれば、もっといい方法がないのかどうか、保存科学の専門家の方にぜひご参加いただきながら考えていったんですね。

そこで見つけた新たな保存処理剤が、トレハロースという天然糖質です。食品業界では長らく使われてきた高級甘味料でしたが、折よく日本の民間企業が人工的に製造できる手法を開発したこともあって、安価に入手・使用できる状況が整ってきていました。

こうした状況の中で、木製の大型いかりだとPEGでは保存処理に10年以上かかるのが、トレハロースを用いれば約2〜3年で済む、ということだんだんわかってきたんですね。

さらには、PEGであればトレハロースであれば、木材に含浸させるためには溶液の濃度をコントロールする必要もあるのですが、そのための太陽熱集積保存処理システムも、同じく保存科学の専門家の方の力で完成しました。先ほど保存処理に時間がかかるお金がかかる、と言っている

たのは電気を利用するからなのですが、自然エネルギーである太陽熱を用いるシステムを構築したことで、大幅なコストダウンも可能になったんですね。

そこでテストとして、以前に鷹島沖で発見されていた元軍船の隔壁板（船内の仕切り板）を使い、松浦市立理蔵文化財センターでトレハロースによる保存処理を進めてみたところ、処理期間が短縮できただけでなく、処理後の劣化もなさそうだとわかりました。

このテストを経ていよいよ、いかりの引き揚げという段階に進んだのです。松浦市では令和2（2020）年か



「水中考古学」の世界との出会い

では、そもそもなぜ私は、ここまで水中考古学の世界に深入りすることになったのか。その経緯についてお話ししてみたいと思います。最初



新たな課題に向き合い続ける

「鷹島海底遺跡」の一角では、以前より漁師さんの網がモンゴル襲来を物語る遺物がかかっていることがあり、昭和55（1980）年からはさまざまな先達の方々により、調査研究が断続的に進められてきていました。そのうちのお一人が、北海道江差町・江差港沖合で発見された旧江戸幕府軍艦「開陽丸」の調査研究で知られていた、荒木伸介先生です。1970年代から一貫して、日本の水中考古学研究のパイオニアでいらした先生でした。荒木先生とご縁で、平成4（1992）年以降に私も「鷹島海底遺跡」の調査研究に深く関係するようになり、水中考古学についてもますますのめりこんでい

くことになったわけですね。とはいえ、最初から全てが順調だったわけではありませんが、沖縄でダイビングしている時は、水でも透明で綺麗なものでした。しかし、沖縄を離ればまったく事情は異なっています。鷹島で初めて潜った時はびっくりました。自分の目の前もほとんど見えない、まるで味噌汁の中にいるような状態。海中に張ってあるロープをたどりながら発掘地点までたどり着くのですが、慣れるまでは怖かったですね。

それでも何とか携わっていき、荒木先生から、今後調査は君がやれ、という話をいただきました。沖縄行きの時もそうでしたが、先生や



先輩からそう言われたら私は「はい」と言わざるを得ません（笑）。18年からは、自分なりに調査手法の模索を繰り返しながら、松浦市と私たちの研究チームで共同調査するようになり、不思議なもので、そこでも自分自身を動かしたのです。鷹島にいたって、当初は指導している学生が調査に参加すると言うので、引率がでたら一緒に行き「お魚が美味しいなあ」くらいに思っていたような状態から、真正面から取り組むに至ったのですから、不思議なものです。

しかし、いざ自分で取り組むとなれば、まずは調査のための基礎情報取得する方法を考えていくようになります。

「いかり」の保存に期待を抱いて

水中考古学とは、水面上にある水遺跡を調査・研究の対象とする、考古学の一分野です。中でも、私が2000年代初期から調査・研究に力を入れているのは、伊万里湾の一部である長崎県松浦市鷹島南岸の沖合に位置する「鷹島海底遺跡」です。

伊万里湾一帯は、モンゴル襲来（元寇）の最後の舞台であり、弘安4（1281）年の「弘安の役」の際には総数4400艘とされる元軍船の多くが暴風雨によって沈没したとされる遺跡です。平成23（2011）年に降に私たちが発見した「鷹島一号沈没船」ならびに「鷹島二号沈没船」に関しては、多くのメディアでニュースにもなったので、ご存じの方もいらっしゃるかもしれません。

沈没船については後ほど改めて触れますが、現在進行しているのは、令和4（2022）年10月に引き揚げた、元軍船の「いかり」の保存作業です。この作業は、単に一つのいかりを保存することだけでなく、関わるものではないです。将来的に希望されている沈没船の引き揚げを含めて、実は水中考古学の今後を占うものなんですね。私も、大きな期待を抱きながら取り組んでいるところです。

なぜ、「いかり」の保存作

業がそこまで重要なのでしょうか。順を追って話してみたいと思います。

今回引き揚げて保存を進めているのは、石材と組み合わせられた木製の大型いかりです。これは「鷹島一号沈没船」発見後の周辺調査の中で平成25（2013）年に確認していたものです。

ただ当時は、私たちの調査以前に引き揚げられていた遺物で現地の保存処理装置のスペースが埋まっていたこともあり、私たちでは確実に保存処理を施す段階がつけられなかったため、この段階で引き揚げないという判断をしました。無理に引き揚げても

が、これがどのようなプロセスを踏みながら日本に広がっていくのかを研究していたんです。

ところが助手になって3年が経つ頃、師匠である乙益重隆先生が、琉球大学でホストの募集が出たぞ、と願書を持ってきたんです。「先生、すみません、私は一度も沖縄に行ったことがないので……」と言ったのですが、これはもう時効だからお伝えしてもよいでしょう、先生は「こういうのは宝くじと一緒だ」とおっしゃったんですね（笑）。出してみなければわからない、ということで応募してみたら、これもご縁なので、沖縄行きが決まったのでした。昭和59（1984）年のことです。

沖縄には古墳はなく、この地域だからこそ可能な考古学というものを探究していた最中である、平成元（1989）年。卒業論文の指導をしていた中のダイビング好きだった学生が、水中考古学で卒論を書きたいと言いだしました。

沖縄ですから周囲は海で囲まれていますし、天草生まれの私にとっても海は身近な存在でしたが、研究対象としては捉えていませんでした。学生の希望には沿いたい、しかし自分は水中のことはわから

た。その手始めとして音波探査によって、地図と地質の情報とを照らし合わせながら保存処理を巡る試行までの過程があるのです。

正直なところ最初は決して、水中の「ロマン」に胸を高鳴らせる、というようなことではなかったわけです。

「一体これは、どうすりゃいいんですか」と頭を抱えて、ジタバタすることから始まっていく（笑）。しかし、何か試す度に、次の課題が出てくる。そしてその課題にまた取り組む、という作業がエンドレスで進んでいく。そうした事態の連続、それらに向かい合うプロセスが、まるでぜんぜん状況に連なるようにずっと続いています。

それはきつと、新しい学問領域であるからこそ起こるようなことなのだと思います。そうした刺激的な「場」に、私は研究者として遭遇できている。それはとても幸せなことなのだろうと、これまで続けてきて感じているところです。

珠玉の7作品を紹介

高校生向け2コンテスト

国学院大学とスクールパートナーズ（高校生新聞社）による第27回全国高校生創作コンテスト（協賛・国学院大学若木育成会・国学院大学院友会・国学院大学北海道短期大学部、後援・文部科学省・全国高等学校長協会・全国高等学校国語教育研究連合会・日本進路指導協会）と、第19回「地域の伝承文化に学ぶ」コンテスト（協賛・国学院大学若木育成会・国学院大学院友会・国学院

院大学北海道短期大学部、後援・文部科学省・農林水産省・全国高等学校長協会・日本進路指導協会）には両コンテスト合わせて1万8342点（創作1万8214点、伝承文化1288点）の応募があり、本紙令和5年12月号で既報の通り各部門の入賞作が決まった。今号では両コンテストで栄冠を射止めた各部門の最優秀賞作品7点を紹介する。

第27回全国高校生創作コンテスト

短篇小説の部 最優秀賞

歓声.mp3

西尾実優さん（北海道・札幌啓成高3年）

今にも心臓が飛び出してしまいそうだった。

「緊張してる？」

ふいに右側から声が聞こえた。

平均的な高さの、ざらつきを感じる声。「た行」の発音がやや甘い。

「少しだけね。他の高校も全部レ

ベル高くて、自信ないなあ」

「大丈夫だって、綾野が何回も何

回も練り直した作品なんだから」

「そうだよ。私も、ドラマは行け

ると思う」

同じく三年のアナウンス班、穂

高が横から早口で捲し立てた。ハ

キハキと歯切れのいい声は、無意

識に「もっと聞いていたい」と思

わせる。穂高も共に県大会まで駒

を進めた仲間で、大会三日目の今

日、発表を終えた。肩の荷が降り

たのか、声には安堵と隠しきれな

い緊張が滲んでいる。

「発表って何時からだっけ？」

「五時から。今は四時手前だか

ら、結構時間あるよ。他校との交

流時間みたいな感じになってる」

「水城が答えた。なるほど、だか

らこんなにも周りが騒がしいの

か。」

「ラジオドラマにも何個か質問き

てたと思うけど」

音のSEを入れたら、登場人物が

歩き出すでしょ。さらに雨の音を

追加したら、そこは雨が降る。

そうして世界ができるの、箱庭み

たいに。白紙に付箋を貼るみたい

に」

「ドラマは一人じゃ作れないか

ら。私、この仕事できてよかった

なあ、なんて。

次の瞬間、誰かに抱きしめられ

る感触がして綾野は驚いた。「い

いこと言うじゃん」と高い声を上

る。

学校の勉強以外にも多くの時間

を割ける高2の夏、何か新しいこ

とに挑戦したいと考えていたとこ

ろ、担任の先生からこのコンテス

トの案内を受けた。私は自分の住

む地域が大好きだが、中学から少

し離れた学校に通っていたことも

あり、詳しく知らない部分が多く

あったため、地元について学ぶき

っかけになると思い、応募に至っ

た。

エイサーとは、沖縄本島および

その周辺離島で、旧暦7月の盆の

時期に先祖供養のために地域の若

者達によって踊られる芸能であ

る。

この研究では、沖縄市を代表す

るエイサーのひとつである園田青

年会と、43年前に中断するも5年

前に復活を果たした宮里青年部と

いう対照的な2つの青年会への聞

き取りを、【どのよう】に伝

統を継承しているのか】【伝統継

承の上で大切なことは何か】【エ

イサーの今後】についてまとめ、

考察し、

聞き取りにより、同じ沖縄市と

いう地域でエイサーを踊っている

団体でも、人が入ってくるきつ

か

第19回「地域の伝承文化に学ぶ」コンテスト

折口信夫賞・地域文化究部門（個人）最優秀賞

エイサーに学ぶ伝統文化の継承 園田青年会と宮里青年部への 聞き取りを中心

盛根悠生さん（沖縄・昭和薬科大附属高2年）

学校の勉強以外にも多くの時間
を割ける高2の夏、何か新しいこ
とに挑戦したいと考えていたとこ
ろ、担任の先生からこのコンテス
トの案内を受けた。私は自分の住
む地域が大好きだが、中学から少
し離れた学校に通っていたことも
あり、詳しく知らない部分が多く
あったため、地元について学ぶき
っかけになると思い、応募に至っ
た。

エイサーとは、沖縄本島および
その周辺離島で、旧暦7月の盆の
時期に先祖供養のために地域の若
者達によって踊られる芸能であ
る。

この研究では、沖縄市を代表す
るエイサーのひとつである園田青
年会と、43年前に中断するも5年
前に復活を果たした宮里青年部と
いう対照的な2つの青年会への聞
き取りを、【どのよう】に伝
統を継承しているのか】【伝統継
承の上で大切なことは何か】【エ
イサーの今後】についてまとめ、
考察し、

聞き取りにより、同じ沖縄市と
いう地域でエイサーを踊っている
団体でも、人が入ってくるきつ
か

この研究では、沖縄市を代表す
るエイサーのひとつである園田青
年会と、43年前に中断するも5年
前に復活を果たした宮里青年部と
いう対照的な2つの青年会への聞
き取りを、【どのよう】に伝
統を継承しているのか】【伝統継
承の上で大切なことは何か】【エ
イサーの今後】についてまとめ、
考察し、

聞き取りにより、同じ沖縄市と
いう地域でエイサーを踊っている
団体でも、人が入ってくるきつ
か

『時刻は午後十時です。皆様いか
がお過ごしでしょうか……』
ぶつ、ぶつと微かなノイズで、
低く落ち着いた音のある男性の声
が、鼓膜を揺らした。流れ出したのは、
あるラジオ番組の録音だ。今とな
つては終了してしまっているもの
、この番組が綾野の一番のお気
に入りだった。パーソナリティは
先程の男性一人のみで、ゆったり
とした語り口調のまま淡々と駄
洒落のような内容になっている。そ
こには流行りの音楽も雑誌の話も何
もなく、ただ他愛ない日々の報
告や、全国各地に潜むリスナーの
近況報告などをずつと囁くように
読み上げ、答えていくのだ。何
が面白いの？ と母には苦い顔を
されたことがあるが、綾野の性に
は合っていた。

「一年三組の綾野です。目が見え
ません。ラジオを作りたいと思っ
ています。よろしくお願いまし
ます」

「じゃあ、部長から一言。残念な
がら県大会突破とはならなかつた
けど……」

「ねえ、次のドラマどうする？」
ミーティングの記録。
『もつと、あなたとくだらない
話がいいよ』
レコーディング中。
『ここ、もうちょっとSEが大き
い方がいいかね。ボールがぶつ
かるシーンでしょう？』
顧問の先生への最終チェックを
通すとき。
『明日、頑張ろうね』
つい一昨日のデータ。自分の
声。

「じゃあ、部長から一言。残念な
がら県大会突破とはならなかつた
けど……」

「じゃあ、部長から一言。残念な
がら県大会突破とはならなかつた
けど……」

「じゃあ、部長から一言。残念な
がら県大会突破とはならなかつた
けど……」

「じゃあ、部長から一言。残念な
がら県大会突破とはならなかつた
けど……」

「じゃあ、部長から一言。残念な
がら県大会突破とはならなかつた
けど……」

「じゃあ、部長から一言。残念な
がら県大会突破とはならなかつた
けど……」

「じゃあ、部長から一言。残念な
がら県大会突破とはならなかつた
けど……」

「じゃあ、部長から一言。残念な
がら県大会突破とはならなかつた
けど……」

「じゃあ、部長から一言。残念な
がら県大会突破とはならなかつた
けど……」

「じゃあ、部長から一言。残念な
がら県大会突破とはならなかつた
けど……」

「じゃあ、部長から一言。残念な
がら県大会突破とはならなかつた
けど……」

地域民話研究部門（個人）最優秀賞

口伝と史料から紐解く杉田用水物語 の史実―恩智養宗和尚の光と影―

渡邊正太郎さん（静岡・富士高一）

私は郷土研究を趣味の範疇とし
て行っていたが、高校に進学した
ことで高校生を対象とした郷土研
究に関するコンクールを見つけた
ことが応募のきっかけとなった。

「初めに応募だったが、中学時代
に力を入れて研究していた杉田用
水（静岡県富士宮市）とその利用
集落の歴史についてまとめたもの
を応募した。

「初めに応募だったが、中学時代
に力を入れて研究していた杉田用
水（静岡県富士宮市）とその利用
集落の歴史についてまとめたもの
を応募した。

「初めに応募だったが、中学時代
に力を入れて研究していた杉田用
水（静岡県富士宮市）とその利用
集落の歴史についてまとめたもの
を応募した。

「初めに応募だったが、中学時代
に力を入れて研究していた杉田用
水（静岡県富士宮市）とその利用
集落の歴史についてまとめたもの
を応募した。

短歌の部 最優秀賞

鳥達よ 祖父はもう来ない この庭に 最後の枇杷を 共に食べよう

蓮沼徳仁さん（東京・巣鴨高1年）

俳句の部 最優秀賞

彗星の 軌道の逸れて 切子かな 植原拓巳さん（群馬・高崎高2年）

現代詩の部 最優秀賞

白い花びら

井之川帆南さん（神奈川・湘南高3年）

夏の黒にその白はよく映えた
首筋が炭酸を飲み干すやうに震へる
私の家の裏山にやってくる蛾の大隊が
私は大嫌いだった

しかしどうだろう、かつての博字才頼も眉目秀麗な主子も獣に墮ちた
すべての生き物がもしもいつか貴き人間であったとしたら
私やみなと同じやうに息をしてみたとしたら
どうして君を突き放せよう

大群でやつてきた蛾たちは大量に花びらのごとく舞い落ちる
またひとひら、君はもう二度と空へ届かない

不可解なほどに温かい車のライトが
徐々に光を強める
白い花びらはそのやはらかな輪郭を
徐々にはつきりとさせる

何度か何度か羽を
徐々にはつきりとさせる

何度か何度か羽を
徐々にはつきりとさせる

何度か何度か羽を
徐々にはつきりとさせる

何度か何度か羽を
徐々にはつきりとさせる

何度か何度か羽を
徐々にはつきりとさせる

何度か何度か羽を
徐々にはつきりとさせる

何度か何度か羽を
徐々にはつきりとさせる

何度か何度か羽を
徐々にはつきりとさせる

何度か何度か羽を
徐々にはつきりとさせる

何度か何度か羽を
徐々にはつきりとさせる

何度か何度か羽を
徐々にはつきりとさせる

何度か何度か羽を
徐々にはつきりとさせる

何度か何度か羽を
徐々にはつきりとさせる

何度か何度か羽を
徐々にはつきりとさせる

何度か何度か羽を
徐々にはつきりとさせる

何度か何度か羽を
徐々にはつきりとさせる

何度か何度か羽を
徐々にはつきりとさせる

何度か何度か羽を
徐々にはつきりとさせる

何度か何度か羽を
徐々にはつきりとさせる

何度か何度か羽を
徐々にはつきりとさせる

何度か何度か羽を
徐々にはつきりとさせる

何度か何度か羽を
徐々にはつきりとさせる

何度か何度か羽を
徐々にはつきりとさせる

何度か何度か羽を
徐々にはつきりとさせる

何度か何度か羽を
徐々にはつきりとさせる

何度か何度か羽を
徐々にはつきりとさせる

何度か何度か羽を
徐々にはつきりとさせる

何度か何度か羽を
徐々にはつきりとさせる

何度か何度か羽を
徐々にはつきりとさせる

何度か何度か羽を
徐々にはつきりとさせる

何度か何度か羽を
徐々にはつきりとさせる

何度か何度か羽を
徐々にはつきりとさせる

何度か何度か羽を
徐々にはつきりとさせる

何度か何度か羽を
徐々にはつきりとさせる

何度か何度か羽を
徐々にはつきりとさせる

何度か何度か羽を
徐々にはつきりとさせる

K:DNA——創立142年目を迎えた国学院大学の**遺伝子**…個人・個性を尊重する校風 若いエネルギーが未来を変える

愛する応援団の伝統を受け継ぎ、 未来に伝えていくために

齋藤璃乃さん（子支4）

入学前から憧れていた応援団の活動にまい進し、83年の歴史をもつ全学応援団で初の女性団長を務めた齋藤さん。チアリーダーらしい弾けるような元気と明るさをたたえた齋藤さんに、「応援」の魅力、団長としての覚悟やチャレンジなど、舞台裏のドラマをうかがった。



齋藤璃乃さんは、今年1月まで全学応援団の歴史の中で初の女性団長を務めた。応援との出会いは高校時代。吹奏楽部で野球の応援を経験してから、夢中になったという。大学では「幼い頃から習っていたバレエの経験を生かし、ダンスと声で選手を支えたい」と、チアリーダーを目指した。国学院大学への進学は、子ども支援学科での学びはもちろんだが、応援団と全国トップレベルの硬式野球部の存在も大きかったそうだ。

齋藤さんにとって、チアリーディングは自己表現だという。表情はもちろん、指先からつま先まで体全体を意識して踊る。選手を元気づけられることがやりが이었다と言うが、うれしいのは観客からの拍手や「よかったよ」の言葉。選手が主役であるからこそ、自分たちの存在が認められ、喜ばれることがうれしかった。

全学応援団はリーダー部、プラスバンド部、チアリーダー部の3部構成。硬式野球部や陸上競技部の応援のほか、学校行事での活動も行っており、長年

の応援団ファンも多い。これまで団長はリーダー部が務めてきたため、初めてリーダー部以外の、しかも女性団長となることを先輩たちに納得してもらうにはどうしたらよいか、就任にあたってとても悩んだという。伝統を背負う責任は重かったが、大学の名を汚さないように、そして応援団を未来につなげていけるようにと必死だったと語る。

試行錯誤を重ねながらも、齋藤さんらしく工夫しながら取り組んできた。

「伝統を守ることは大前提ですが、時代に合わせた変化も必要です。私にできることは、上下関係を重んじる中でも後輩が意見しやすい雰囲気をつくってよく話し合うようにしたり、一人一人の頑張りを認めたり…気配りすることだと考えて取り組んでいました。参加行事を増やし、他大学とのコラボを企画するなど新しい取り組みにも挑戦しました」

とはいえ60人近い団員をまとめるのは容易ではなかった。

「応援団を最優先に生活してきた私とは違う価値

観をもつ団員もいます。ですが、上から押さえ付けることはしたくない。団長として行動する前に常に自分自身に問いかけていたことは、『それは応援団に必要なかどうか、迷惑をかけないか、団の名前を汚さないか』。これが私の芯なんです。芯がなければ伝わりません。理不尽なことは言わないよう心がけ、全力で取り組むことで団員のお手本になればと思ってやってきました」

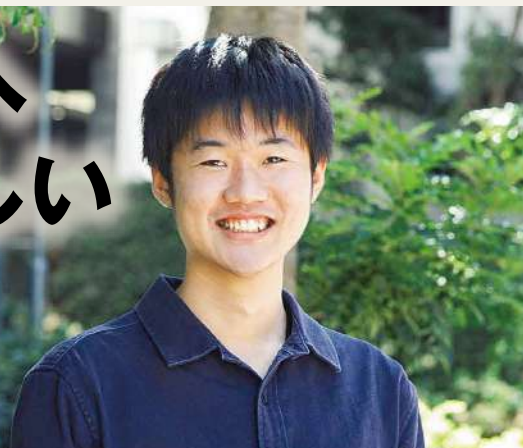
応援団の活動を誇りに思い、楽しみ、半面、誰よりも自分を律して過ごしてきた。幹部交代した今、その日々を振り返って思うことを聞くと「志をもって、やり遂げることの大切さ。何事も自分次第だと改めて気付きました。そして団長を務めたことで強くなり、めげなくなりました。今は団を背負わせていただいたこと、そして団を次世代へつなげたことに感謝しています」と笑顔で語ってくれた。

春には社会人となる齋藤さんに、心からのエールを送りたい。

「書く」から「伝える」「教える」へ 世界の人々に書道を知ってほしい

畠山湧気さん（日文3）

小学生の頃から書道に打ち込み、これまでに書道展で文部科学大臣賞などを受賞する快挙を成し遂げている畠山さん。ひたすら文字を書き続けてきた畠山さんは、現在3年生。今、どんな道を思い描いているのだろうか。



各種大会やコンクールなどで優秀な成績を収めた団体・個人などに贈られる「学生部長賞」を令和4（2022）年度に受賞した畠山湧気さん。小学生時代に書道と出会ってから、書道一筋の青春を送ってきた。全国で唯一書道科がある埼玉県立大宮光陵高等学校に在学中、書道展に作品を出すために注力していたときは、授業が始まる1～2時間前の朝練、週8時間ある書道の授業、そして書道部の部活や書道教室でまた練習に励むという凄まじい日々を送ったという。その結果、全国高等学校総合文化祭で朝日新聞社賞・奨励賞（第3席）受賞という輝かしい実績を残してきた。

ところが「大学に進学してからは少し気持ちも切り替わって……。書道は続けていましたが、自分は書道家には向かないなと思っていました。その頃、国語の教員にも興味を持ち始めていたのですが、それまで書道一筋だったので、将来仕事にしないのならなぜ書道を続けているんだろう？と迷いも出てきて。そんな時に、書道ともう一つの『人に教える』

という道が交差するきっかけがあったんです」。

それはフィリピン出身の友人に英語で書道を教えたことだった。もともと教えることにも興味があり、国学院大学に進学したのも書道と国語の双方の教員免許が取れるからだだったという畠山さん。その友人が書道に夢中になってくれた喜びと、英語でコミュニケーションすることの楽しさが相まって「外国の人に書道を教える」という新しい道がひらけてきたのだ。

その友人とのやり取りで英語にも興味が湧いた畠山さんは、国学院大学で学んでいる留学生のパートナーとして日本語学習や相談の相手となり支援する「日本語パートナー」の活動に参加したり、SNSで海外の人との交流を楽しんだりするようになったという。昨年8月には大学主催の「日本語教育実習スタディツアー」で台湾へ行き、授業の一環で書道を教える経験もした。

「台湾は漢字文化の国ですが、意外にも書道は初めてという生徒さんばかりで驚きました。初めて持

つ筆で、自分の好きな文字や好きなキャラクターの名前なんかを書きながら『楽しい、楽しい』って喜んでくれて。ああ、これが自分のやりたいことだなと発見した気持ちでした。台湾に限らず、書道に興味を持つ海外の人は多いです。日本語を教えながら、日本文化を知ってもらうために書道を教えることができたらいいなと思い始めました」と笑顔を見せる。

将来は日本語学校の教師になろうかと考えていると話してくれた畠山さん。書道を仕事にする道に進まなくても、書道は続けていきたいそうだ。畠山さんにとっての書道とは何かを聞いてみると、「書道は究極の自己表現だと思います。同じ文字を書いても、書く人によって書の雰囲気はまったく異なるほど、その人そのものを表すもの。これからの将来何があるか分かりませんが、もし、海外の人に書道を教えたりするようになったら、自分の書がどう変わるか見てみたいですね」。